
「令和の時代の滋賀の高専」設置に向けた懇話会(第1回)

日 時 令和3年 6月24日(木)15:00~17:00

場 所 滋賀県大津合同庁舎7階 7-B会議室

会議次第 1 開会

2 主催者挨拶(3分)

3 座長よりご挨拶(3分)

4 構成員のご紹介(7分)

5 滋賀県における高専設立検討の背景と目的、目指すべき方向性について(3分)

6 本事業のご説明と懇話会の位置づけについて(2分)

7 全国の高専事例からみた他高専の特徴や輩出している人材の傾向について(20分)

<ゲストスピーカーによるプレゼンテーション>

✓ 田中 陽氏(日本経済新聞社)

8 宇宙・情報通信産業において今後必要とされる・活躍が期待される人材像について(40分)

<ゲストスピーカーによるプレゼンテーション>

✓ 岩本 裕之氏(宇宙航空研究開発機構)

✓ 牟田 梓氏(さくらインターネット株式会社)

9 意見交換(40分)

✓ 滋賀県の高専において輩出すべき人材像

10 閉会

資 料 ○ 会議次第

○ 資料1/出席者名簿

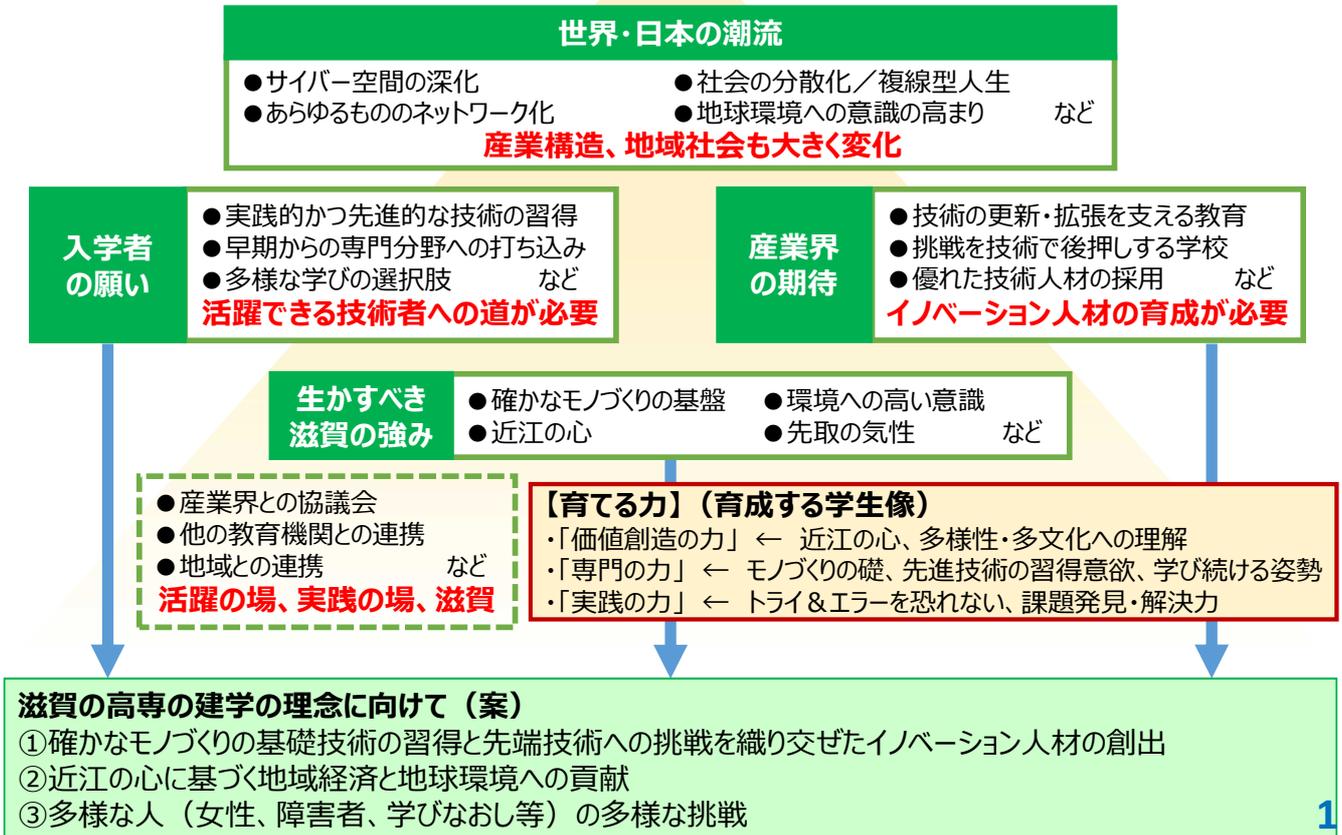
○ 資料2/配席表

○ 資料3/懇話会(第1回)資料

■出席者名簿(敬称略)

#	名前	所属/役職
1	八尾 健(座長)	京都大学名誉教授 国立香川高等専門学校元校長・名誉教授 富山県立大学客員教授
2	岩本 裕之	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 人事部長
3	尾本 智恵子	株式会社三東工業社 建設ディレクターチーム チーム長
4	小杉 雅明	株式会社村田製作所 八日市事業所管理部長
5	田中 陽	株式会社 日本経済新聞社 編集委員
6	中作 翠	株式会社ナカサク 常務取締役 兼 経営管理セクター長
7	牟田 梓	さくらインターネット株式会社 運用チームリーダー
8	脇 淳子	滋賀県大津市立皇子山中学校 校長

「中間まとめ2020」に掲げた検討の方向性（Society5.0の先の技術、CO2ネットゼロを支える技術、学生ベンチャーの創出、多様な豊かな環境での学び）を踏まえ、以下の観点で再整理



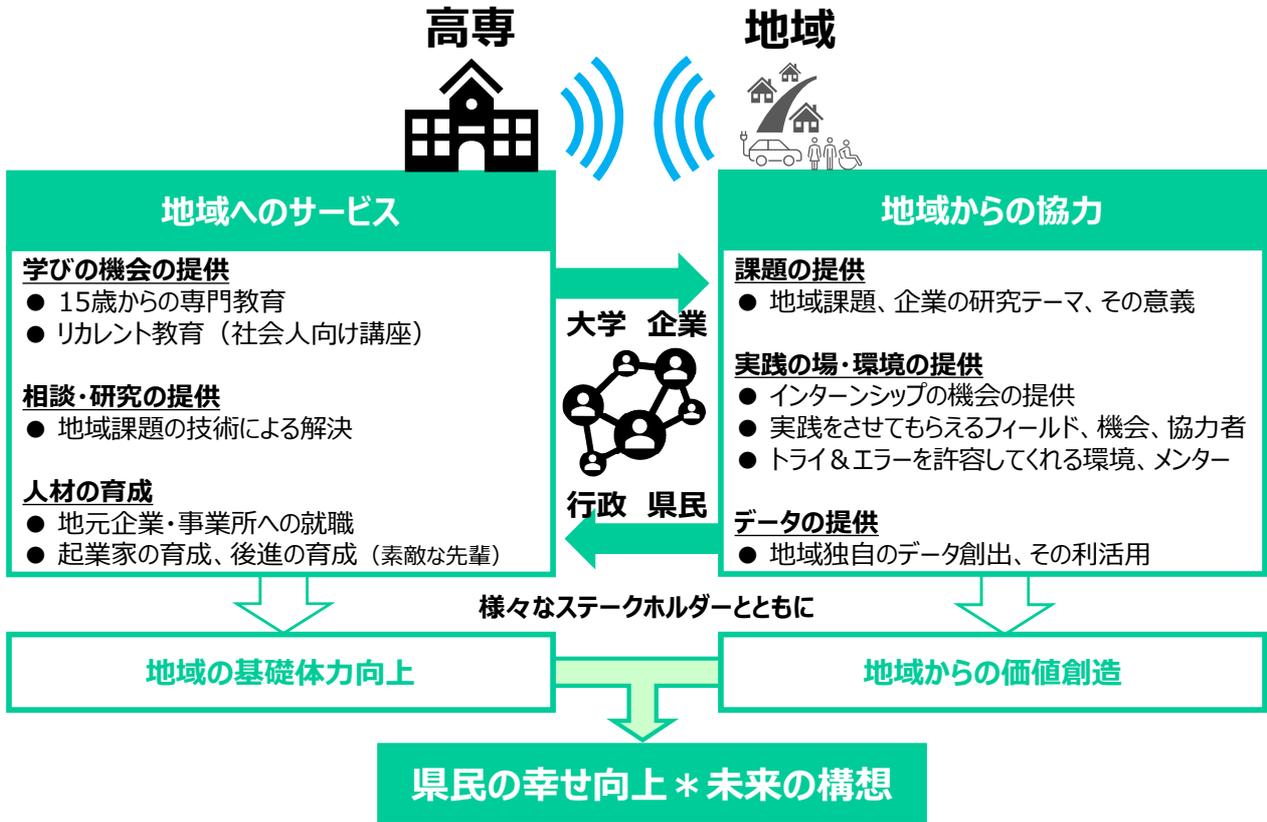
「中間まとめ2020」の課題設定

- 「高等専門人材」は、「価値創造力」と「専門性」、そして「実践力」を兼ね備えた人材として、**次代の滋賀とその産業を支えるために必要な人材**であり、その育成には、これまで本県になかった「高等専門学校」が最も適していると考えられる。
- 高専の強みを生かすとともに、入学者確保、地元定着、財源などの課題解決に向けた工夫をしつつ、既存の県内教育機関の機能も踏まえながら、**新たな学びの選択肢としての高専の役割**を検討する。

滋賀の高専のイメージ（試案）「すべての人と地球を支え続ける技術を磨く学校」

専門の力	<ul style="list-style-type: none"> ●数学および工学の基礎知識を修め、 ●実社会に応用できる技術を身につけるとともに、 ●それらを磨き続ける姿勢を保つ学生 <p>幅広いリテラシー＊複数の応用基礎＊深い専門性</p>	<p>数学＊データ＊工学 基礎＊応用＊更新 プロ意識の醸成 リカレント</p>
実践の力	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な文化への関心につながる幅広い教養とコミュニケーションへの意欲を持ち、 ●自らの考えを表現かつカタチにするとともに、 ●実際に手を動かし、人々の共感と協力を得る力を持つ学生 <p>関心＊表現＊実践＊チームビルディング</p>	<p>ダイバーシティ リベラルアーツ、語学 演習・実践 地域への技術実装</p>
価値創造の力	<ul style="list-style-type: none"> ●人と自然に寄り添うことで、 ●社会課題や新たな価値を見出すことに優れ、 ●技術を通じて人々の幸せを支えることに挑む学生 <p>すべての生きる人を支える技術に挑む人材</p>	<p>柔らかなデジタル社会 気候変動への対応 パーソナライズ 起業家</p>

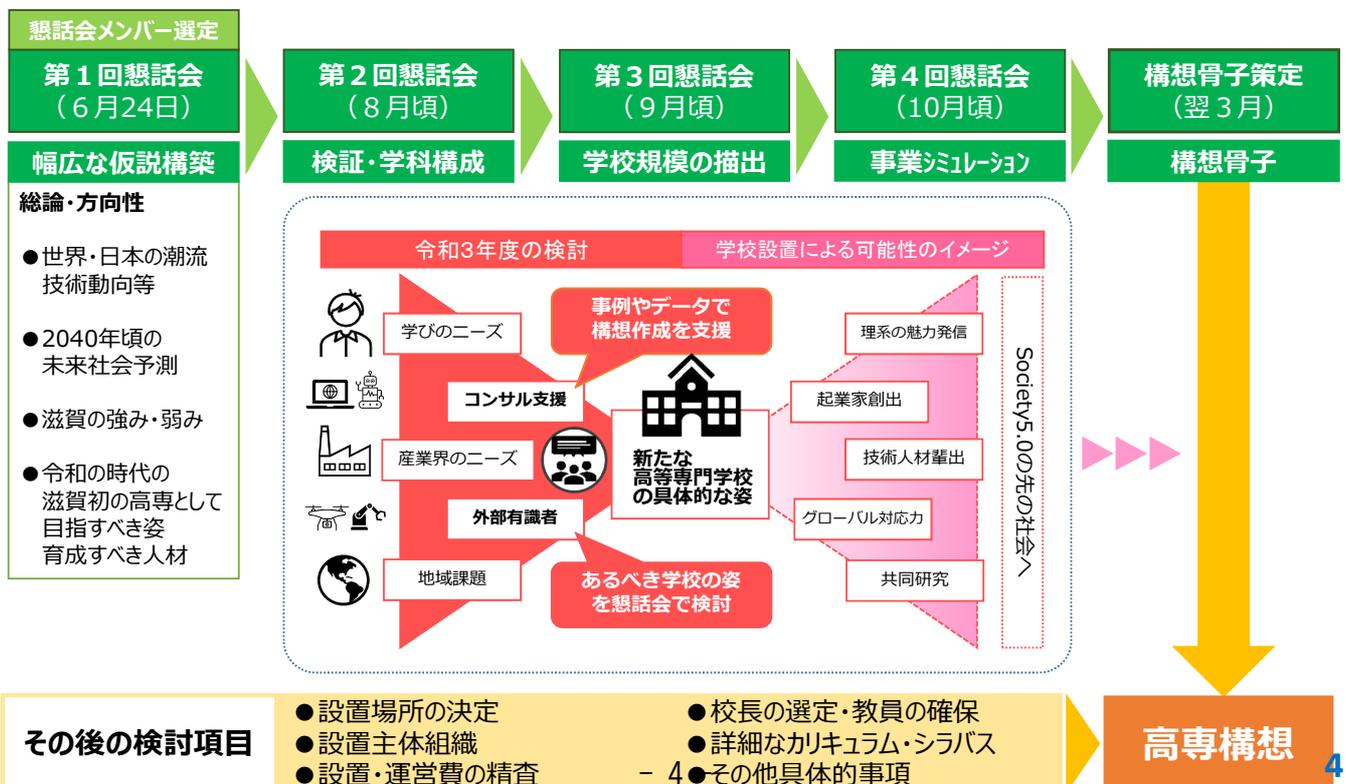
学校と地域とのつながり (地域へのサービス、地域からの協力) 試案



3

2. 今年度の懇話会での検討の流れ

- 今年度のゴールは、「構想骨子」の策定
- 有識者懇話会 (概ね4回開催)で、仮説構築から学校の基本スペックに至るまで御意見を伺い、庁内検討会での議論を踏まえながら、令和4年3月には「構想骨子」を策定する。



4